

# 農業技術 プリズム

諫早湾干拓地では極早生から晩生まで幅広い作型でタマネギが栽培されています。

極早生・早生品種の種子生産量は気象に左右され、従来の品種だけでは十分な種子量を確保できない場合があります。そこで、環境保全型農業に取り組んでいる諫早湾干拓地において、栽培可能で安定した収量が確保できる極早生・早生品種の追加選定のため、新品種「マーキュリー3号」の栽培特性を4年間調査しました。

定植時期は11月中下旬で、収穫時期（70〜80%倒伏から約1週間後を目安に収穫）は4月下旬〜5月上旬となり、「レクスター1号（極早生）」より約1

週間遅く、「七宝早生7号（早生）」より約1週間早いです。平均総収量は約7300kg/10a、平均可販収量は約6670kg/10aで、特別栽培基準の施肥量にも影響はありませんでした。

（環境研究部門 平山裕介）

## タマネギ「マーキュリー3号」

### 干拓で安定収量確保 収穫遅速に影響なし

マーキュリー3号の栽培特性

収穫年	品種	総収量 (kg/10a)	可販収量 (kg/10a)	商品化率 (%)	定植日	収穫日	1個重 (g)
2013	マーキュリー3号	6,653	6,590	99	11/27	5/2	250
	七宝早生7号	7,052	6,945	98	11/27	5/8	264
2014	マーキュリー3号	7,804	7,701	99	11/22	5/1	293
	七宝早生7号	8,685	8,685	100	11/22	5/7	326
2015	マーキュリー3号	6,970	6,553	94	11/11	4/28	261
	レクスター1号	6,920	6,484	94	11/11	4/23	260
2016	マーキュリー3号	7,782	5,834	75	11/11	4/25	292
	レクスター1号	6,127	5,362	88	11/11	4/15	230
平均	マーキュリー3号	7,302	6,669	92			274

※栽培密度26,666本/10a(株間10cm・条間20cm:4条植)黒マルチ栽培  
 ※施肥量(N-18kg/10a うち1/2有機)  
 ※2013-2014は「七宝早生7号」、2015-16は「レクスター1号」を対照品種とした  
 ※2016年は抽苔が多く、商品化率が低かった

体系で諫早湾干拓地におけるタマネギ青果目標可販収量6000kg/10aを確保できました。